

北海道支部会報および機関誌「細氷」に関する著作権の学会への委譲についてお願い

日本気象学会北海道支部理事会

北海道支部は1957年6月に創立され、1960年8月まで「北海道支部会報」1号～3号を、1962年1月から1986年7月までは「北海道支部だより」1号～32号を、さらに1987年7月以降は機関誌「細氷」を刊行してきました。支部会報1号（1957年7月15日付）を見ると、長という職を避けていたはずの中谷宇吉郎が初代支部長であったことが判明し、同年11月に札幌で開催された全国大会での気象学会75周年記念式典講演が和達清夫、中谷宇吉郎両氏で行われたこと、畠山久尚学会理事長から支部活動費として1万円交付されるという通知があった等々、修正跡も生々しい手書き原稿ならではの味わいのある会報となっています。また、「北海道支部だより」第1号では川口貞夫（札幌管区气象台（当時、以下同））の「オーロラ撮影」、日下部正雄（札幌管区气象台）の「契比天刀摩須武羅喜須頓」（カピタン・トーマス・ブラギストン）、孫野長治（北大・理学部）の「濠州の人工降雨」に関する記事が掲載されており、それ以降、現在まで専門家による分かりやすい解説記事が毎号掲載されています。

しかしながら紙の刊行物の状態のままでは、年月とともに紙質が劣化するなど冊子保管の困難や印刷費や送料が大きな負担となってきました。このため2004年12月に開設した支部のホームページ（<http://www.metsoc-hokkaido.jp/>）をきっかけとして、これまで北海道支部会員が半世紀以上にわたって享受してきたこれらの貴重かつ興味深い記事を、より多くの学会員にも読んでいただきたいという動機からこれらの文書の電子化が提案されました。網倉 真担当幹事（2011年5月逝去）による手書きあるいは謄写版刷り文書のスキャナーを使った電子ファイル化から始まり、その後事務委託によってようやく全号のインデックス化が完了しました。ただし、電子化されたこれらの記事を公開するためには、これに収録された全ての著作物の著作権を日本気象学会北海道支部（以下、「道支部」という。）が有する必要があります。

本来ならば、すべての著者に対して個別に掲載記事の電子化保存・公開の許諾を求める必要がありますが、それは現実にはほとんど不可能です。そこで、既に支部のホームページに公開されております会報および機関誌「細氷」掲載記事の全ての著者に対し、当該記事の著作権を同支部に委譲されることをお願いする次第です。ただし、電子化保存・公開を希望されない記事については、お知らせいただければ対象から除外します。

この取扱いについて、ご質問、ご意見がある場合は、日本気象学会北海道支部事務局あてまでお知らせください。2017年6月末日までを意見のお申し出期間とし、それまでにご異論がなければ、著作権を委譲されるものとして、電子化保存と公開の対象とさせていただきます。会報および機関誌「細氷」の電子化保存・公開事業は、研究の便宜を図るのみならず文化史的にも大変意義のある事業です。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

す。なお、同様な周知手続きは、日本気象学会機関誌「天気」や「気象研究ノート」の電子媒体化とその公開を行った際にも執られていたことを申し添えます。

本件について、ご質問、ご意見がある場合には、日本気象学会北海道支部事務局宛に遠慮なくお申し出願います。

本件担当：日本気象学会北海道支部事務局

〒060-0002 札幌市中央区北2条西18丁目

札幌管区気象台気象防災部内

日本気象学会北海道支部事務局

TEL 011-611-6147